

# ルーマニア月報

2022 年 5 月号

本月報はルーマニアの報道をもとに、  
日本大使館がとりまとめたものです。

令和 4 年 6 月 9 日  
在ルーマニア大使館作成

## 主要ニュース

### 【内政】

- 3 日、ヨハニス大統領は、ボロシュ研究・イノベーション・デジタル化相を欧州投資・事業相に任命すると共に、ブルデュジャ氏を研究・イノベーション・デジタル化相に任命。
- 3 日、上下両院はリチウ副検事総長及びスクンティ下院議員を憲法裁判所新判事として承認。
- 11 日に上院で、18 日に下院を通過して、海洋掘削法の改正案が成立。

### 【外政】

- 11 日、フランス軍参謀本部は、NATO 軍の枠組み国として活動するルーマニアに、最新鋭の地对空防衛システムである MAMBA システムを配備したと発表した。ルーマニア国防省によれば、フランスはメディア岬（黒海北西岸）にある国立防空訓練センターに防空分遣隊を配備している。
- 19 日、ルーマニア国防省は、ルーマニアに新たに結成された戦闘群について報道発表を发出した。フランスが枠組み国の役割を担うことを提案したことを受け、NATO 高度即応統合任務部隊（VJTF : Very High Reaction Level Force）の先鋒とされるルーマニアに展開するフランス大隊は、ベルギーとオランダの部隊をローテーションで統合しながら、国内で戦闘群を形成することになる。同戦闘群の主力部隊はチンクー（ルーマニア中央部）の国立共同訓練センターに配備され、ルーマニア軍とともに任務と訓練活動を行う。

### 【経済】

- 3 日、ルーマニア最大の天然ガス生産者であるロムガス社は、黒海ネブチューン・ディープ海域の 50 % の権利を保有する米エクソンモビル社が発行した全株式を購入する資産買収文書に署名した。本件は、ルーマニアのエネルギーの独立を達成することを意味し、ネブチューン・ディープ海域からの最初のガス採掘は 2026 年が予定されている。
- 23 日、米ニュースケール社は、ルーマニアで最初の小型モジュール炉（SMR）がドゥンボヴィツァ県ドイチェシュティの旧火力発電所跡地に建設される旨公表した。ギッツァ・ルーマニア国営ヌクレアエレクトリカ社社長は、ドイチェシュティ火力発電所跡地は、ニュースケール社 SMR の設計基準と安全原則に則り、適切であると評価された旨述べた。

### 【我が国との関係】

- 12 日、令和 3 年度外務大臣表彰を受賞したブカレスト大学日本研究センターへ表彰状の授与が行われた。
- 13 日、ウクライナの人々への人道支援物資を届けるため、日本の航空自衛隊 C-2 輸送機が初めてルーマニアのアンリ・コアンダ空港に到着した。
- 6 月 1 日から 5 日にかけて、ルーマニアにおける出版業界が主催する唯一の国際的な本の祭典「ブックフェスト」が開催され、日本がゲスト国として参加。ステージ、日本スタンド、子供エリア等で日本文学、漫画、伝統芸能、ファッション等の日本関連イベントを約 70 件実施。

## 内政

### (1) 欧州投資・事業相及び研究・イノベーション・デジタル化相（PNL）の任命

- 5月3日、ヨハニス大統領は、マルチエル・ボロシュ研究・イノベーション・デジタル化相（PNL）を解任し、空席となっていた欧州投資・事業相に任命すると共に、セバスチャン・イオアン・ブルデュジャ（PNL）氏を研究・イノベーション・デジタル化相に任命する政令に署名し、同日、2名による宣誓式が行われた。

### (2) 上下両院は憲法裁判所新判事 2 名を承認

- 5月3日、上下両院は憲法裁判所の新しい裁判官 2 名として、PSD（社会民主党）が推薦したボグダン・リチウ副検事総長及び PNL が推薦したラウラ・イウリア・スクンティ下院議員をそれぞれ承認した。
- 上院本会議は 76 対 34 によりスクンティ下院議員を憲法裁判所の判事に任命した。
- 下院本会議は 208 対 93 によりリチウ副検事総長を憲法裁判所判事に任命した

### (3) 海洋掘削法の改正

- 5月11日、上院は、91 対 13 で、沖合および陸上の深海油田での石油探査、開発、利用を規制する海洋掘削法を改正し、ルーマニア政府の先取特権を確立する法案を可決。5月18日、下院は 248 対 34 で、同改正案を採択した。AUR は、本法は外国企業に有利となるという理由で反対。
- 黒海の天然ガスの埋蔵量は 2000 億立方メートル以上と推定され、シンクタンクの研究では、利益税、ロイヤルティ、社会保障費およびその他の税金から、2040 年までに約 26 億米ドルがルーマニア国家予算にもたらされる。更に、ルーマニアの GDP に 710 億ドル以上をもたらす、3 万人以上の雇用を創出・維持する。
- 政府は、この鉱床の開発から 60%の利益を得、残りの 40%は出資者である OMV と Romgaz に支払われる。

### (4) 世論調査の結果

- 世論調査機関 Avangarde による調査（調査期間 5月10日-18日、回答者数 880 人、信頼度 95%、統計誤差±3.3%）
  - ✓ ルーマニア人が考えるルーマニアにとっての友好国は以下の通り。  
モルドバ（64%）、米・独（54%）、仏・英（53%）、西（52%）、伊（51%）、イスラエル（49%）、ブルガリア（44%）、ポーランド・ウクライナ（40%）、オランダ（32%）
  - ✓ 44%のルーマニア人がウクライナ紛争は、ルーマニアにとって中長期的に重要な問題であると認識。
  - ✓ ルーマニア人の 64%がロシアを敵国と認識。
- 世論調査機関 CURS による調査（調査期間 5月19日-26日、回答者数 1067 人、統計誤差±3%）
  - ✓ 支持政党  
PSD（社会民主党） 35%、PNL（国民自由党） 23%、AUR（ルーマニア人統一同盟） 10%、USR（ルーマニア救国同盟） 9%、PMP（国民運動党） 6%、UDMR（ハンガリー人民主同盟） 5%

## 外政

### (1) 欧州・EU関連

- 4日、シュタインマイヤー独大統領は、ブカレストを訪問し、ヨハニス大統領及びチウカ首相と会談。
- 4日、ヨハニス大統領は、ルッテ蘭首相と電話会談し、200名のオランダ軍のルーマニア派遣に謝意を表した。
- 6日、ナウセダ・リトアニア大統領は、ブカレストを訪問し、ヨハニス大統領及びチウカ首相と会談。
- 14日、アウレスク外相は、在キエフ・ルーマニア大使館が活動を再開したことを発表した。
- 19日、コスタ・ポルトガル首相は、ルーマニアを訪問しチウカ首相と会談し、NATOの東端地域の強化及びウクライナへの支援に関して議論した。コスタ首相は、ポルトガル軍200名が駐留するカラカルも訪問した。
- 25日、チャールズ英皇太子は、ルーマニアを訪問し、ヨハニス大統領及びチウカ首相と会談。
- 26日、ヨハニス大統領は、ミシェル欧州理事会議長と電話会談した。

### (2) 米国関連

- バイデン米大統領夫人のルーマニア訪問
  - 6日及び7日、バイデン米大統領夫人がルーマニアを訪問し、ヨハニス大統領夫妻と会談したほか、コガルニチャーヌ空軍基地、現地学校を訪問した。
- ブリンケン国務長官との会談
  - 15日、アウレスク外相は、NATO非公式外相会合にて、ブリンケン国務長官と会談し、ウクライナ経済への支援について、特にガラツィ及びコンスタンツァの港を利用した穀物輸出について議論した旨自身のツイッターに投稿した。

### (3) 周辺国関連

- ルーマニア・モルドバ3者会談
  - 24日、アウレスク・ルーマニア外相は世界経済フォーラムのフリンジで、モルドバのガブリリツァ首相及びポペスク副首相兼外務・欧州統合相と会談を行い、ロシアのウクライナに対する違法な軍事侵攻に伴う地域情勢に関する問題や、モルドバへの影響に対処する方法について議論した。
  - アウレスク外相は、モルドバの欧州統合のための積極的な支援をはじめとする政治的な面においても、財政的・物質的支援や専門知識の移転などの二国間的な面においても、ルーマニアがモルドバのニーズに対して確実かつ適切な支援を提供し続けることを強調した。
  - 3名はブルト川に架かる橋に焦点を当てた相互接続プロジェクトの実施を加速させる必要性について言及した。同時に、ルーマニアが最近決定したモルドバへの1,000万ユーロの供与に関する技術的な問題についても議論された。同時に、3名は、発効したばかりの1億ユーロの無償資金協力の実施を加速させるため、資金提供の対象となるプロジェクトを迅速に特定する必要性について合意した。
- ルーマニア・ポーランド・トルコ外相会談
  - 27日アウレスク外相は、エルドアン大統領と会談し、NATOの開かれたドア政策、スウェーデン及びフィンランドのNATO加盟を支持する旨表明した。
  - 同日、アウレスク外相は、ラウ・ポーランド外相と共に、チャヴシュオール・トルコ外相主催の3カ国外相会談に参加した。会談後、アウレスク外相及びラウ外相は、スウェーデン及びフィンランドのNATO加盟に楽観的見解を示した。
  - アウレスク外相は、チャヴシュオール・トルコ外相との二国間会談も行った。

#### (4) 防衛・安全保障関連

- フランス、ルーマニアに最新鋭の地对空防衛システムを配備
  - 11日、フランス軍参謀本部は、NATO軍の枠組み国として活動するルーマニアに、最新鋭の地对空防衛システムであるMAMBAシステムを配備したと発表した。ルーマニア国防省によれば、フランスはメディア岬（黒海北西岸）にある国立防空訓練センターに防空分遣隊を配備している。
  - 本システムは、ルーマニア軍のパトリオット・ミサイル・システムやデベセル空軍基地（ルーマニア南西部クライオバ市に近い）の地上配備型迎撃ミサイルシステムとともに、NATO東端地域を抑止・防衛する任務を担う。本システムは中・長距離防空ニーズに対応するよう設計されており、スタンドアローンでの運用も可能であるが、協調ネットワークに統合することも可能。
  - MAMBAシステムは本年5月16日に配備され、飛行士100名によって運用される。
- NATO戦闘群前方プレゼンス（Battle Group Forward Presence）の結成
  - 19日、ルーマニア国防省は、ルーマニアに新たに結成された戦闘群について報道発表を発出した。
  - 戦闘群（於ブルガリア、ルーマニア、スロバキア、ハンガリー）の編成は、ウクライナでロシアが引き起こした軍事衝突を受けて、NATOが中・長期的に抑止力と防衛態勢を強化するために行った幅広い措置の一部である。
  - フランスが枠組み国の役割を担うことを提案したことを受け、NATO高度即応統合任務部隊（VJTF：Very High Reaction Level Force）の先鋒とされるルーマニアに展開するフランス大隊は、ベルギーとオランダの部隊をローテーションで統合しながら、国内で戦闘群を形成することになる。同戦闘群の主力部隊はチンクー（ルーマニア中央部）の国立共同訓練センターに配備され、ルーマニア軍とともに任務と訓練活動を行う。
  - 同時に、フランスはメディア岬（黒海北西岸）にある国立防空訓練センターに防空分遣隊を展開する。

## 経済

### (1) 国営航空 T A R O M への赤字補填

- 2日、欧州委員会は新型コロナウイルスの影響で赤字を被ったルーマニア国営航空 T A R O M を支援するため、ルーマニア国家が総額 1.9 百万ユーロの支援を行うことを承認した。
- 同支援は、2020年7月～12月の間にまで運航された14の飛行ルートで、新型コロナウイルス拡散防止のために課された旅行制限によって負うことになった損害を補填するためのもの。

### (2) 米エクソンモビル社による黒海ガス利権の売却

- 3日、ルーマニア最大の天然ガス生産者であるロムガス社は、黒海ネプチューン・ディープ海域の50%の権利を保有する米エクソンモビル社が発行した全株式を購入する資産買収文書に署名した。
- 本件は、ルーマニアのエネルギーの独立を達成することを意味し、ネプチューン・ディープ海域からの最初のガス採掘は2026年が予定されている。
- ロムガス社と OMV ペトロム社が協力し、2026年までにガス採掘するという目標を達成することは、ルーマニアに必要なガス消費を賄うだけでなく、ルーマニアがこの地域及び EU 諸国にガスを供給できるようになることを意味する。
- ロムガス社が米エクソン社に支払う金額は、10.6 億ドルになる。

### (3) コンスタンツァ港からのウクライナ産穀物の輸出

- 世界第4位の穀物輸出国であるウクライナは、ロシアの侵略により、自国の港が利用できないため、鉄道でポーランド、スロバキア、ルーマニアを経由して輸出している。
- 世界的な食糧危機を回避するため、ウクライナは、今後3か月以内に約20百万トンの穀物を輸出する必要がある。
- 大量の穀物を短時間で大量に処理するにはコンスタンツァ港の設備では限界があり、より多くの機器が必要である。2021年、コンスタンツァ港は、セルビア、ハンガリー、オーストリアなど国外からの穀物を25.2百万トン出荷した。
- 政府及び EU の支援により、クレーン、列車の積み下ろし装置等、ウクライナの穀物を更に取り扱えるよう必要な設備投資をする必要がある。
- ウクライナからの穀物を仲介する際の大きな障害の1つは、コンスタンツァ港に接続する鉄道インフラの問題である。政府は、6月に200百万レイ（40百万ユーロ）の投資により、コンスタンツァ港内にある35本の鉄道引き込み線を改修する計画があり、ドナウ川を超えるウクライナとルーマニアを結ぶ鉄道路線の修復にも取り組むとしている。

### (4) ブライラ橋建設に関するグリーンデアヌ運輸・インフラ相発言

- 20日、グリーンデアヌ運輸・インフラ相は、ブライラ橋の建設工事の現状について、同橋との接続道路建設について、2ヶ月前に道路建設に必要な規定の一部を変更し、15日以内に公益事業者が建設業者に許可を与えない場合、それは暗黙の承認と見なされるようにしており、これによって、これまでの遅延を取り戻したい旨述べ、橋と接続道路は2022年末までの完成を目指す旨改めて述べた。

## (5) 黒海ガス開発を可能とするオフショア法が議会で採択

- ・ オフショア新法によれば、政府は黒海ガス掘削業者が収入から得られた利益に対し累進課税し、年間 50 億レイ（10 億ユーロ）の税収が見込まれる。ガス掘削業者が利益を実現できない場合、課税は行われませんが、利益が生じた場合、ガス価格を電力換算した上で 15 ～ 70 % の範囲で以下のように課税される。
- ・ 85 から 100 レイ/MWh 未満の場合、利益の 15 % の課税
- ・ 115 レイ/MWh 未満、30 %
- ・ 130 レイ/MWh 未満、35 %
- ・ 145 レイ/MWh 未満、40 %
- ・ 160 レイ/MWh 未満、50 %
- ・ 175 レイ/MWh 未満、55 %
- ・ 190 レイ/MWh 未満、60 %
- ・ 190 レイ/MWh 以上の場合、70 %
- ・ ルーマニアは、EU でオランダに次いで 2 番目のガス産出国であり、将来ルーマニアは EU 諸国へのガス輸出国になる可能性がある。ガス生産は国家予算に最も貢献している分野の 1 つであり、2013 ～ 21 年まで、ガス生産による税収は 80 億レイ（16 億ユーロ）を超えている。

## (6) 小型モジュール炉（SMR）の建設場所

- ・ 23 日、米ニュースケール社は、ルーマニアで最初の小型モジュール炉（SMR）がダウンボビツァ県ドイチエシュティの旧火力発電所跡地に建設される旨公表した。ギツァ・ルーマニア国営ヌクレエレクトリカ社社長は、ドイチエシュティ火力発電所跡地は、ニュースケール社 SMR の設計基準と安全原則に則り、適切であると評価された旨述べた。
- ・ ポベスク・エネルギー相は、SMR の建設により「これまで以上に、エネルギー安全保障が確実になる、ルーマニアはエネルギー自立を達成し、脱炭素化の目標を達成する、SMR 建設に関する重要なステップである」旨述べた。
- ・ ルーマニアは、SMR コンポーネントの生産及び将来のオペレーターとスペシャリストのための訓練教育センターとなる。また、エンジニアの訓練のため SMR の制御用シミュレーターが設置される。SMR は、193 の直接雇用、1500 の建設雇用、2300 の関連産業の雇用を生み出し、年間 4 百万トンの CO<sub>2</sub> 排出を押さえる。
- ・ 米ニュースケール社の SMR は、米国原子力規制委員会から設計承認を受けた最初で唯一の SMR である。米ニュースケール社は SMR 開発を進めるために、斗山、サムスン、GS エナジーコーポレーションと既に契約を締結している。日本の J B I C も、米ニュースケール社に 110 百万ドルの戦略的投資を行った。

## (7) 主要経済統計（国家統計局、財務省、ルーマニア中央銀行、発表）

### <国家統計局>

- ・ 貿易赤字（2022 年 3 月末）：71 億 6,840 万ユーロ（前年同期比 +18 億 3050 万ユーロ）
- ・ GDP 成長率（2022 年第 1 四半期）：対前期比（季節調整後）5.2%，対前年同期比 6.5%（同調整前）・6.5%（同調整後）。

### <財務省>

- ・ 財政収支（2022 年 4 月末）163 億 3,310 万レイ（GDP 比 1.23% の赤字）（前年同期：GDP 比 1.81% の赤字）。

### <ルーマニア中央銀行（BNR）>

- ・ 外貨準備高（2022 年 4 月末）：405 億 100 万ユーロ（前月：401 億 4,300 万ユーロ）
- ・ 経常収支（2022 年 3 月末）：46 億 7,600 万ユーロの赤字（前年同期：27 億 3,600 万ユーロ赤字）。
- ・ 外国直接投資（FDI）（同）：22 億 9,900 万ユーロ。（前年同期：20 億 9,900 万ユーロ）。
- ・ 中長期対外債務（同）：965 億 1,600 万ユーロ（2020 年末比：▲0.7%）（対外債務全体の 71.3%）。
- ・ 短期対外債務（同）：388 億 2,200 万ユーロ（2020 年末比：3.7%）（対外債務全体の 28.7%）。

■マクロ経済

(特に記載のない限り、対前年比又は前年同期比、季節調整後、出典は国家統計局 I N S)

【4月分統計】

| 消費者物価指数              | 3月                            | 4月                            |
|----------------------|-------------------------------|-------------------------------|
| 全体                   | 10.15%                        | 13.76%                        |
| 食料品価格                | 11.20%                        | 13.54%                        |
| 非食料品価格               | 10.86%                        | 16.35%                        |
| サービス価格               | 6.53%                         | 7.11%                         |
| 消費者物価指数<br>(ユーロスタット) | ユーロ圏<br>7.4%<br>EU27国<br>7.8% | ユーロ圏<br>7.4%<br>EU27国<br>8.1% |

【3月分統計】

| (1) 鉱工業               | 2月                             | 3月                             |
|-----------------------|--------------------------------|--------------------------------|
| 工業生産高                 | ▲1.0%                          | ▲3.9%                          |
| 工業売上高(名目)             | 25.0%                          | 28.9%                          |
| 工業製品物価指数              | 43.8%                          | 51.7%                          |
| 新規工業受注高(名目)           | 18.6%                          | 27.4%                          |
| (2) 販売                |                                |                                |
| 小売業売上高<br>(自動車・バイク除く) | 8.5%                           | 5.5%                           |
| 自動車・バイク売上高            | 6.7%                           | 6.8%                           |
| 小売業売上高<br>(ユーロスタット)   | ユーロ圏<br>5.0%<br>EU27か国<br>5.4% | ユーロ圏<br>0.8%<br>EU27か国<br>1.7% |
| (3) 建設工事              |                                |                                |
|                       | 4.6%                           | 1.1%                           |

(4) 輸出入

|    | 2月                       | 3月                       |
|----|--------------------------|--------------------------|
| 輸出 | €70億4,990万<br>(21.9%)    | €82億2,620万<br>(26.0%)    |
|    | RON348億6,410万<br>(23.7%) | RON406億8,760万<br>(27.6%) |
| 輸入 | €95億1,240万<br>(23.9%)    | €107億9,770万<br>(22.9%)   |
|    | RON470億4,210万<br>(25.7%) | RON534億660万<br>(24.4%)   |



## 我が国との関係

### (1) 令和 3 年度外務大臣表彰授与式、ブカレスト大学日本研究センター

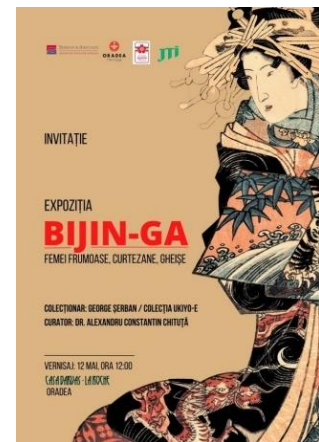
- 12 日、令和 3 年度外務大臣表彰を受賞したブカレスト大学日本研究センターへ表彰状の授与が行われた。
- 同センターは、2010 年の設立以来ほぼ毎年、日本や欧州各国から専門家を招待し、日本や日本語に関する講演会やシンポジウムを開催することで、当地における日本の理解促進や日本語教育の発展に大きく寄与してきた。また、同大学日本語学科の学生で成る囲碁、書道、茶道、演劇等日本文化クラブの協力も得て、日本文化紹介行事を年に数回開催し、首都での日本文化広報にも大きく貢献してきた。



外務大臣表彰授与式様子

### (2) 浮世絵版画展「Bijin-ga」開催

- 12 日、オラデア市において浮世絵版画展「美人画」が開催。
- 開会式には当館より北川参事官が出席したほか、オラデア市副市長、オラデア遺産事務局長、同浮世絵コレクターのジョルジェ・シェルバン氏、展覧会キュレーターが挨拶を述べた。
- 同展示は 7 月末まで開催され、「美人画」をテーマにした 90 点の日本の版画が展示される。



浮世絵版画展ポスター

### (3) 航空自衛隊機による人道支援物資の空輸

- 13 日、ウクライナの人々への人道支援物資を届けるため、日本の航空自衛隊 C-2 輸送機が初めてルーマニアのアンリ・コアンダ空港に到着した。

### (4) ブックフェストでの日本スタンド、多数のイベント実施

- 6 月 1 日から 5 日にかけて、ルーマニアにおける出版業界が主催する唯一の国際的な本の祭典「ブックフェスト」が開催され、日本がゲスト国として参加。ステージ、日本スタンド、子供エリア等で日本文学、漫画、伝統芸能、ファッション等の日本関連イベントを約 70 件実施。
- 日本人作家では、芥川賞作家の多和田葉子先生がブカレストを訪問し、また同じく芥川賞作家の小川洋子先生及び川上弘美先生がオンラインで参加した。



多和田葉子先生とのイベント様子



ベルリンを拠点に活動する日本人舞踊家  
柳千穂子さんとのイベント様子